

## 令和5年度 学校総合評価

### 1 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の達成目標に対する評価は、A(達成した)が5項目、B(ほぼ達成した)が3項目あったものの、C(現状維持)が2項目となった。Cの評価に該当した重点目標に対しては、学校評議員から、安易に達成目標の数値を見直して良しとせず、具体的な取り組みに対して検証を行って判断し、毎年アクションプランの内容も変えていく必要があるとの指摘をいただいた。

来年度は、学校評議員からの指摘を鑑み、重点課題そのものと適切な達成目標値の検討を行い、重点項目によっては見直すことも必要と考える。

各アクションプランの詳細は、様式5に記載してあるとおりであるが、重点目標を概観すると以下の通りである。

① 授業力の向上を重点項目として、今年度も「互見授業参観及びICT機器を使った授業の実施」についての目標を設定した。目標達成の数値は、互見授業参観を実施した教員の割合は50%以上とほぼ目標を達成できたが、ICT機器を使った授業を実施した教員の割合は64%と昨年より低下した。学校評議員からは、ICT機器を使うのは目的でなく、生徒にどのようにして理解させるのか研修・研究してほしい。生徒の興味関心に必要な道具であり、生徒が考えやすい、取り組みやすい、一緒に考えてみたいという点で工夫してほしい。ICTにたけている若手の先生に活躍してほしいと指摘をいただいた。

今後とも生徒の学習意欲を喚起できるような授業の工夫を行うとともに、ICT端末を活用した新たな授業展開を行うなど、学校全体で組織的に取り組んで行く必要がある。

② 今年度は、規則正しい生活習慣の確立と社会性を身につけさせることを目的に、「SNS利用に関連したネットトラブルの防止」について、また「夜11時までに就寝・毎朝、朝食を摂って登校」について課題設定とした。SNSに関しては個々の案件で少なからずやりとりに関わっており各生徒へ指導している。SNS等の正しい使用について理解を深めさせる活動を積極的に行ったが、目標が達成できなかった。

「規則正しい生活習慣」については、「取り組み週間」を設定して、事前事後に生徒アンケートを実施し、その週間だけは効果があったようである。学校評議員からは、ネット・生活習慣のことは家庭との連携が必要となる。保護者がどれだけ言っても行動しないが、周りから言われると子供もそうしてみようかという気持ちが出てくる。また、学校でここまでやる必要があるかと思われる方もいるかもしれないが、高校生になっても必要である。規則正しい生活についての取り組みは繰り返し行ってほしいという意見があった。

近年、スマートフォンの依存症が問題視され、日常生活において睡眠不足や昼夜逆転に陥る者も増加している。達成目標について、生徒の実態を正しく分析・判断し、さらに具体的な取り組みについて検討していきたい。

③ 今年度も、生徒の進路意識を高める手立てとしてキャリア教育に一層力を入れることを鑑み、進学・就職において評価対象となる各種資格取得を奨励し、資格取得を目標として設定した。キ

キャリアガイダンスによって、自身の進路選択や進路目標が明確になった生徒の割合は1学年 62%、2年生は 82%であった。また、漢字検定・英語検定など、1年生は1種類、2・3年生は2種類以上の資格を取得する生徒の割合では、1年生は 0.7%（英語検定のみ）、2年生は1種類が 30.2%、2種類以上が 7.8%、3年生は 33.8%であった。資格取得のための学習は、それをきっかけに教科の学習意欲にもつながっており、今後とも積極的に参加を勧めたい。次年度へ向けて、各種検定試験の適切な受験級・日程・対策方法など情報を適宜生徒に伝え、積極的に受験を奨励していきたいと考えている。

また、読書によりさまざまな生き方や考え方に触れさせることで、キャリア教育等の推進につながるための進路支援を目的に、今年度は、「手話を通して福祉を考える読書・教養講座」が、進路を考えるうえで有意義だったと答える生徒の割合について目標を設定した。具体的な取り組みとして、生徒の自主的参加による「手話を通して福祉を考える」をテーマにして、3回に分けて実施した。富山県視聴障害者協会を通して指導を受け、実際に取り組んでみることで分かることが多く、生徒は「自分のためになる」と判断し、参加者増加につながったようである。生徒は非常にいい表情で受講しており、反響も大きかった。将来の自分の進路に生かすことについて考えさせた結果 100%の達成となった。今後とも充実した進路支援に取り組んでいきたい。学校評議員からは、進路選択について、1年生ではまだその意識は希薄だと考えられるので、2、3年での興味関心を高めるためにはどのようなものがよいかを考えていって欲しい。また、生徒がこれからの人生を歩んでいくため、自ら学ぶ意欲を育ててやることは大切。生徒の主体的な取り組みである手話講座は、生徒の自信につながったものと思われる。次年度以降も継続して取り組んでもらいたいなどの意見をいただいた。

④ 今年度も「部活動個人達成目標が達成できた生徒」、「ボランティア活動に参加した生徒」についての目標を設定した。部活動では、年度当初に部活動の個人目標カードを記入させ、年度末に目標達成度を自己評価させた。その結果、部活動個人達成目標が達成できた生徒の割合は、「達成できた」と「まあまあ達成できた」が全体の 65%であった。具体的な取り組みとして、部活動達成目標カードを各クラスに掲示した。目標を教室に掲示したことにより、目標を常に意識しながら生活するよう心がけさせた。

今後とも部活動への意欲的な参加を促しながら、目標を持って取り組む生徒を少しでも増やし、部活動の活性化を図っていきたい。

また、ボランティア活動では、今年度ボランティア活動に参加した生徒は 164 名であった。コロナ禍以前のように、学校行事や地域活動に多くのボランティア活動に参加した。学校評議員からは、生徒が意欲的にできる部分なので、部活動を頑張ってもらいたい。文化部・運動部とも、達成感を味わわせてほしい。部活動の活性化は教員の負担の点からも進めにくいところである。外部との連携も必要である。特別活動について、ボランティア活動が盛んである。他の学校より地域のボランティア活動に参加している。毎年継続して行っているのはよい取り組みであるという意見をいただいた。

⑤ 今年度は、コロナ禍以前のように活気のある本校 P T A 活動を回復させ、P T A 役員相互の連携を密にし活性化を取り戻すことに重点を置いたところ、P T A に関する会合の実施回数も 15 回となり 125%実施することができた。学校祭では P T A が中心になり 4 年ぶりの模擬店を出店

してもらい、生徒保護者とも盛り上がった。また、本校ホームページに学校行事等の記事など機会を捉えて多く掲載するなど、情報発信に力を入れて取り組んだ。学校からの情報や活動成果等をよりタイムリーに発信することができた。このことについては十分に評価できる結果だったと言える。

今後ともPTA会長の牽引力と役員の皆様の理解と協力によりPTA活動がより活性化し、充実した活動となるよう推進していきたい。

学校評議員からは、PTA活動については、学校新聞で、10大ニュースに学校祭の模擬店が1位になっていることは生徒も保護者も達成感があったと思うので来年度も継続してもらいたいという意見をいただいた。

学校評議員の皆様には学校の状況も十分に理解していただいております。年度末の学校評議員会においては、社会の流れに応じてアクションプランの目標設定について疑問がある部分は、思い切って来年度は変更することが必要である。家庭や地域との連携をさらに強化し、本校の教育活動を、より実りあるものにしてもらいたい。今後とも保護者、地域社会、中学校（生徒も含む）が本校を求めているものを把握し、本校の特色を生かすようさらに検討してもらいたい。といった貴重な示唆提言いただいた。次年度のアクションプランの作成に生かし、より生き生きと学校生活を送り、地域に認めてもらえる生徒の育成にあたらねばならないと考えている。

## 2 次年度へ向けての課題と方策

次年度に向けての具体的な課題と方策については、各アクションプランに記載されているとおりである。今年度、新たな目標設定を行った5つの目標については、目標値、具体的方策等において見通しが甘い点も見受けられた。次年度へ向けて再検討し、適切なものに改めていきたい。

「A」と評価された項目では、より高い目標を設定し保護者との一層の連携のもとで、教職員一体となって取り組み、生徒の健全な育成にむけて取り組んでいきたい。